

優秀賞

お父さんの親孝行

福岡県 福岡教育大学附属福岡小学校五年 松井 玲子

「カチツ、プシユウ、シユポポポポポ」

真っ白なあわと子どもの飲み物にはない金色の液体がコップに注がれていきます。お父さんとおじいちゃんがビールをついでいます。父方のおじいちゃんの家に来てばんご飯を食べているところです。おじいちゃんにさそわれて、ふだんお酒を飲まないお父さんもめずらしくいっしょに飲んでいます。たくさん飲んで、おばあちゃんの作ったごちそうをたくさん食べて、たくさんの話題でもり上がっています。お父さんはよく日にはおじいちゃんのパソコンの設定をして、げん関の雨どいを修理して、おじいちゃんとはんしゃくです。その次の日もばんしゃくです。お父さんはたくさんビールを飲んでお酒くさくなってねむってしまいます。ゴーゴーと地面のあなから何かがふき出しているようにさえみえます。「お父さん、ねるときお酒くさいから、今日は飲む

のをやめてみたら。」

明るく言ってみたせいか、はははと笑って

「おじいちゃんがさそってくれたから今日も飲むよ。」

と言われました。鼻をつまんでねむろうかと考えていたら

「あれは、ああ見えても親孝行なんよ。」

ダイニングの外でこっそりとお母さんが言いました。親孝行って何だろう。プレゼントをあげたり、特別なお手伝いけんをわたすことしかすぐには思いうかびません。

「男親は子どもが小さいときは、いっしょにキャッチボールをしたいと思ったり、子どもが成人したらいっしょにお酒を飲みたいと思うのでしょね、たぶん。だって昼間よりも目じりが下がってるし。」

とお母さんが続けます。そういえばおばあちゃんが「いそがしいところ帰ってきてくれてありがとう。」そういってげん関でむかえ入れてくれたことを思い出しました。一年間で数日しか会うことのない両親に、辞書にあるような「親にまごころを持って接すること」がお父さんにとって「家に帰ること」や「いっしょにビールを飲むこと」なのだろうと思えてきました。お母さんはさらに言いました。

「特別なイベントがなくても家族ですごすことは楽しいよね。」

はっとしました。特別なイベントのない特別なプレゼントなのだとなっ得しました。おじいちゃんとおばあちゃんにとってお父さんがいて、いつものふつうの日をすごすことが実は最高の親孝行かもしれないなと思いました。

